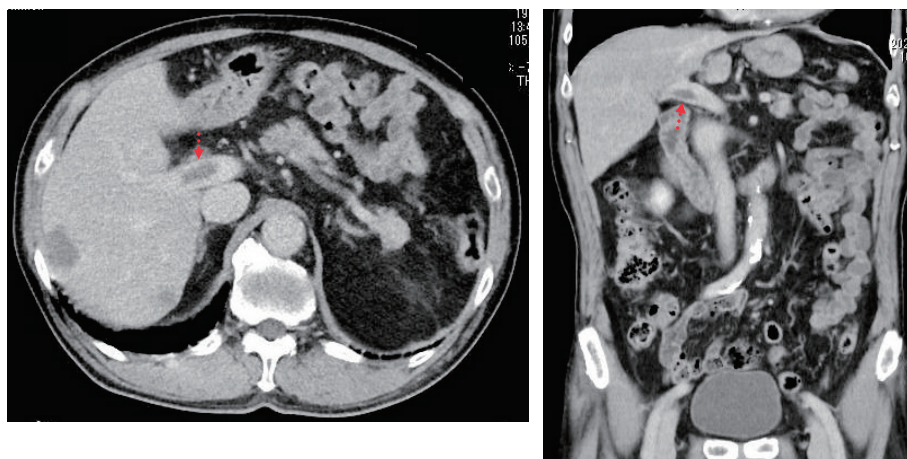
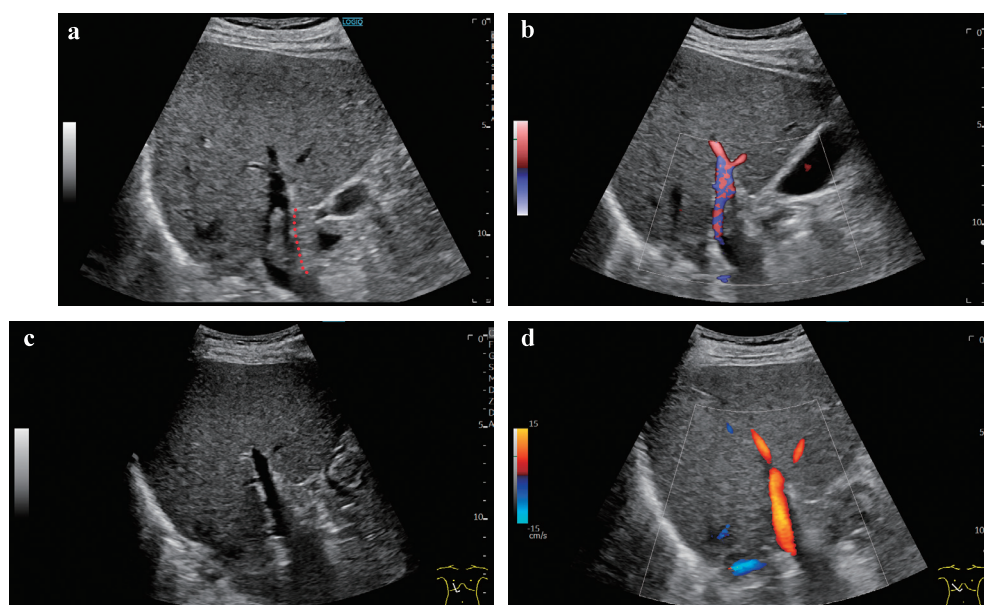


直腸癌の化学療法中に発症した門脈血栓症

岡島 年也¹ 保田 智美² 福永 渉³ 松川 美和⁴ 小林 克弘¹**Fig. 1** 腹部造影CT. 門脈本幹に血栓が示唆される低吸収域を認めた (→)**Fig. 2** 門脈の長軸超音波像. 門脈本幹に3 cm長の低輝度から等輝度の血栓を認めた. 血栓は門脈壁に固着していたが、血栓の末梢側断端は浮遊していた (a 赤色点線). また、血栓形成部位の門脈内腔は低流速であったため、カラードプラでは門脈内腔と血栓との境界の判別が不明瞭であったが、パワードプラでは明瞭に判別し得た (b). 治療後1ヵ月目のエコー所見上、血栓は消失していた (c, d)

門脈血栓症は、肝硬変をはじめ痔疾患、肝胆道系の炎症疾患や悪性疾患などが原因で発症し、成人の場合には門脈圧亢進を呈する肝硬変が原因の約

80%を占める。一方、悪性疾患は約5%と頻度は低い¹⁾、近年、がん関連血栓症への感心が高まっており注意すべき疾患の一つである。

Portal vein thrombosis diagnosed during chemotherapy for rectal cancer

Keywords: portal vein thrombosis, chemotherapy, cancer associated thrombosis

¹協立病院循環器内科, ²同臨床検査部門, ³同消化器外科, ⁴同薬剤科

Toshiya OKAJIMA¹, Tomomi YASUDA, RMS², Wataru FUKUNAGA³, Miwa MATSUKAWA⁴, Katsuhiro KOBAYASHI¹

¹Department of Cardiology, ²Department of Clinical Laboratory, ³Department of Digestive Surgery, ⁴Department of Pharmacy, Kyoritsu Hospital, 16-5 Chuocho, Kawanishi, Hyogo 666-0016, Japan

Corresponding Author: Toshiya OKAJIMA (toshiyaokajima@gmail.com)

Received on July 9, 2021; Revision accepted on August 3, 2021 J-STAGE. Advanced published. date: September 6, 2021